

2020年 1月 主な行事予定



日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7 冬季休業日終	8 午前授業 給食なし 始業式	9 給食 始 マラソンタイム 書初め会 全学年5時間授業	10 百人一首タイム 全学年5時間授業	11
12	13 成人の日	14 マラソンタイム	15 百人一首大会 委員会活動 SC	16 避難訓練 全学年5時間授業	17 マラソンタイム 学校公開・校内書初め展 連合作品展見学	18 道徳授業 地区公開講座 ユニセフ フリーマーケット
19	20 全校朝会 連合作品展見学	21 マラソン大会(3,4校時) 給食試食会(6年)	22 午前授業 マラソン大会(予備日)	23 学校公開 終	24	25
26	27 生活指導朝会 三者面談期間	28 SC	29 保護者読みきかせ クラブ活動 SC	30 学校保健委員会	31 漢字検定	1

2月の主な予定

- 7日(金) 入学説明会
- 12日(水) 音楽会リハーサル
- 15日(土) 第11回音楽会
- 25日(火) 授業参観・保護者会(低)
- 27日(木) 授業参観・保護者会(高)
- 28日(金) 授業参観・保護者会(中)

マラソン大会に向けて

つつじ小学校の子どもたちは、『自分にあつた速さで根気よく練習を続け心身を鍛える』『全力を尽くし、最後まで走り抜く態度を養う』というねらいのもと、1月の校内マラソン大会、2月のカメラアマラソンに向けて、毎日の練習に一生懸命に取り組んでいます。大島一周マラソンカードの取り組みも盛んです。本番に向けてそれぞれが自分の記録を少しでも伸ばして欲しいと思います。

年末年始に少し食べ過ぎてしまったという皆様、お子様と一緒にマラソンで汗を流してみるのはいかがでしょうか。

さあ、マラソン大会までもう少しです。がんばれ、つつじの子！

マラソン担当 青山 光一



はてなき海へ



令和2年1月8日(水)
大島町立つじ小学校
☎ 04992-4-0184
校長 田代紳一郎

多言語空間の到来

校長 田代 紳一郎

未だに台風の爪痕が残る中、令和初の正月を迎えました。旧年中は、本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。子供たちの歓声とともに三学期が始まりました。授業日数は50日あまり。どの学年も新たなめあてに向かって、学習・生活両面で総仕上げに取りかかります。特に、6年生には卒業式までの一日一日を大切に過ごし、5年生へしっかりバトンを渡してくれることを期待しています。

さて、訪日観光客が増加の一途をたどる中、今年はいよいよオリンピック・パラリンピック開催年です。駅構内では多言語のアナウンスが流れ、街中では外国語表記の案内も多く見られるようになりました。期間中は全世界から人々が押し寄せ、国際色を感じる機会が増えることでしょう。簡単な言葉をかわすことで、おもてなしの気持ちとともに日本人の優しさや親切心が少しでも伝わればよいと思います。

このような多言語空間の到来を迎えて、先日、人工知能を使った16言語に対応した翻訳システムが開発されたとのニュースを耳にしました。日本語音声をスマホに吹き込むと、スーパーコンピューターに送信され、翻訳された音声のリターンしてくる優れモノ。その間、1秒足らず。昔々神の逆鱗に触れて互いの言葉を理解できなくなったとされる「バベルの塔」崩壊も何のその。互いの言語でスマホに話しかければ、ストレスフリーで会話が成立するとのことで、これまでの翻訳機器の性能をはるかに超えるものだそうです。まるで各国語の通訳者が瞬時にそばにいてくれるのと同じで、外国人に接する時のためらいや緊張感はきっと軽減するでしょう。また外国旅行をした際、現地でのトラブル回避に大いに役立ちそうです。

しかしながら、このような便利なツールへの依存が、もしかしたら外国語学習へのモチベーションを下げるにつながらないかと心配になってきます。そんなに必死に外国語を学ばなくてもよいのでは、という声が聞こえてきそうです。ようやく小学校では外国語が教科となり、さらに中学・高校では「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランスよく身に付けさせ、英語の運用能力を高めていこうとしている段階に入ったわけですから、改めてここで外国語学習の意義を再確認しておかなければなりません。

外国語を学ぶ面白味は、日常会話だけでなく、その国の歴史・文化・芸術・生活様式・思考法などに触れることができる点にあると思います。さらに、比較・対照することで日本語の独自性をも感じることができます。言語の多様性を尊重することは人間の多様性を尊重することにもつながるはずですから、決して機器任せにするのではなく、できるだけ多くの言語に興味・関心をもちたいものです。とはいっても、あらゆる言語に精通することは至難の業。せめてグローバル言語である英語の学習を中心としつつ、先進的な翻訳機等を効率的に活用しながら英語以外の言語にも触れていければと思います。将来必ずや、子供たちが仕事に就いた時には、世界各国の人々と言葉を介して共存していくことはまちがいないのですから。

学芸会作文



「スーパーつつじ小3, 4年生」

3年 菊池 健誠

「学げいかい」

1ねん たかはし あき

つつじ小学校で学げいかいをしました。

ぼくは、学げいかいってなんだろうとおもいました。いえにかえっておねえちゃんにおしえてもらいました。

ぼくは、まちの人やくになりました。れんしゅうがはじまってせりふをいうとき、やったことがなくてくふうするのがむずかしくてきんちょうしました。でも、本ばんは、もっときんちょうしました。はじめて学げいかいをやって、むずかしいなとおもったけれど大きなこえをだせてよかったです。

「きんちょうした学げい会」

2年 いい田 りと

リハーサルの日、げきを早くやりたくてわくわくしていました。でも、きんちょうもしていました。

本番の日に、どきどきしていつもより早くおきてしまいました。「ほいほい。」のせりふが小さくならないかなと心ばいでした。

学げい会本番の日、はじめにぼくが出るところには人がいっぱいいたから心ぞうがとび出しそうでどきどきしました。けれど、友だちが大きな声で言えていたから、ぼくはほっとしました。友だちががんばって言ってくれてあん心して大きな声で言えました。どう作もつけられて、いつも通りにやれました。どうどうとやれて楽しかったです。

学げい会がおわって、「さいしょはどきどきしたけれど、もう一回やりたい。」と思いました。

11月30日、学芸会。場所つつじホール。3, 4年生みんなが「ユタと不思議な仲間たち」をやりました。ぼくはヒノデロという役をえんじました。

1番がんばったのは、おもしろくすることです。なぜかという、さびしい場面がさびしいだけでなく楽しい思いも入って、「さびしい」と「楽しい」の2つの思いを入れておもしろくするぞと思ったからです。

ざしきわらしは、リーダーのペドロ、知恵ぶくろのダンジャ、あばれんぼうのゴンゾ、泣き虫のモンゼ、あわてもんのジュモンジ、はずかしがりやのジンジョ、お調子者のジュノメエ、いつものんびりトガサ、赤いおべべのヒノデロ、これで全員、9人です。ざしきわらしは、ユタしか見えないユタの仲間です。だから、ユタが困っていたらざしきわらしたちが助け、ざしきわらしたちが困っていたらユタが助けます。みんないい仲間です。3, 4年生みんなでやれてよかったです。

「大成功学芸会」

5年 川崎 颯太

ぼくは学芸会で大変だったことがたくさんあります。

1つ目は台詞の暗記です。台詞は多くないけど、同じような台詞がたくさんあって分からなくなるからです。

2つ目は自分の役の気持ちを考えることです。どんな人物なのかを考えて演じるのが大変でした。理由は、人物の気持ちを意識すると声が小さくなって、声を大きくすると気持ちが分からなくなるからです。

3つ目は動きです。動作がよく分からなくて言葉とばらばらになったり、動きに集中しすぎて声が小さくなりたりしたからです。

このような大変だったことがたくさんあったけど、本番が大成功で良かったと思います。来年は小学校最後の学芸会なので、今までで一番いい劇をつくりたいです。



「ドキドキした学芸会」

4年 高橋 なつめ

私は、ペドロ一家と村の子の役を演じました。

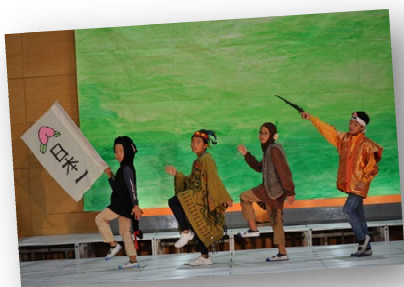
練習の時は、はずかしくて大きな声を出してセリフを言うことができませんでした。リハーサルでは、1年生から6年生までの方が観ていました。とてもはずかしくなり、早口でセリフを言ってしまいました。自分でも、どんなことをしゃべったのかわからなくなりました。

学芸会当日。母が「学芸会では、ダンスと役のセリフをがんばってね。」と言いました。私は「がんばるね。」と答えました。

いよいよ学芸会の発表の時がきました。きんちょうしながらも、がんばってどうにか学芸会をやり切りました。思った以上に会場に人がいたので、とてもきんちょうしました。

「ユタと不思議な仲間たち」の劇を通して友達の大切さを知りました。練習する中で協力することが大事なことも知りました。

これからも、友達と力を合わせて、がんばりたいと思います。「ユタと不思議な仲間たち」は、すばらしい劇になりました。このすばらしい劇のことはずっと忘れません。



「最後の学芸会」

6年 中村 栄大

ぼくは今回の学芸会で桃次郎という劇のアンズ役を演じました。アンズは桃太郎に殺され、地蔵になって鬼ヶ島でくらしている役です。

練習が始まってすぐのころはアンズの気持ちを考えないで真顔でやっていたり、台詞を強く言ったり弱く言ったりすることができませんでした。それでも、練習をしていくにつれて強く言ったり、弱く言ったりすることができるようになり、他の鬼役の人と声をそろえて言ったりすることができるようになりました。

先生からは

「学芸会中にみんなの顔が見えるように斜めに前に進んでいった方がいいよ。」

とアドバイスをもらいました。その通りにやってみると、観客席の人の顔が見えるようになり、緊張してしまいました。でも、本番で緊張しないように先生も考えて練習しているんだなと思うと、すごいなと思いました。

リハーサルでは1,2年生や3,4年生の方が声が大きく、迫力がありました。それを見て本番では負けないようにしようと、家でも練習しました。

いよいよ本番。ぼくが出ている時は笑いも起きず、ぼくは(下手くそだったのかな)と思いました。でも、学芸会が終わって、

「いろいろな人が全員上手だったって言っていたよ」と先生が言っていたのを聞いて安心したし、小学校最後の学芸会は大成功したと思いました。

「よっしゃー、終わったぜ。」

ぼくは今回の学芸会でみんなと仲良くなれたと思います。今回と同じように中学校では、もっと動きを大きくして、もっと上手にやりたいと思いました。